

令和5年度「市民と議会の対話集会」記録

文教民生委員会

- 開催日時 令和5年11月7日（火）14：00～16：00
- 開催場所 苗木交流センター ホール
- 懇談先 A型・B型作業所の経営者・事業主・スタッフ 11名
(雇用する立場)
- 出席議員 文教民生委員
鷹見憲三（委員長）、勝 彰（副委員長）
黒田ところ、田中愛子、小池菜摘、糸魚川伸一
- 懇談テーマ 障がい者の雇用・就労支援について

■懇談内容

【現在の活動状況について】

- ・新たに作業所を始めたいと考える事業所があると思うが、作業の確保が難しいと感じる。
- ・中津川市は製造業が多いが、中には人手不足で仕事を消化できていない企業もあると思う。作業所への潜在的なニーズがあると思う。そういったところを行政等でマッチングしてくれるとありがたい。
- ・50年前から作業所を始め、授産を始めてから40数年経っている。最初はなかなかうまくいかなかったが、現在は約200人の利用者と170名の職員がいる。施設の経営は支援員の収入で職員を雇っている。利用者には利益配分をしている。どこの施設も苦勞をしていると思うが、試行錯誤をしている。利用者の支援事業継続、お金儲けが課題である。利用者の70～80%の人達はすぐに仕事ができるわけではない。相当、大変であるので、新しい利用者の対応には職員が2人必要だと思う。
- ・情報交換の場があると良い。授産部会として部会を開いてきた。岐阜県でも最初の作業所連絡会を立ち上げ7年間運営をしてきた。補助金をもらえるよう条例も作った。どうしたら下請けがうまくいくか、支援とはいったいどういうことかと考えながら進めてきた。その都度情報交換が必要だと感じる。
- ・支援学校の卒業生が少なくなってきた。定員がある。定員を満了した稼働、利用者の確保を考えなくてはいけない。
- ・寝たきりでも、できる仕事があればやってもらっている。重度の障がいのある方でも給料をもらって好きなものを買うことができるよう努力してきた。
- ・利用者に幸せをつかんでもらうためには、社会から疎外されない、社会のルールにのっ

とった生活ができるよう、育てていかないといけない。

- ・自宅にこもっている人が結構いると思う。ご本人の幸せや親御さんの安心のために、行政にはそういう人たちを掘り起こせる機会を設けていただきたい。
- ・利用者の作業の確保、一般就労先探し、日々こうした奮闘をしている。仕事を斡旋できるマッチング制度があると利用者にも企業にも良いと思う。
- ・利用者が交通費を捻出できないことがある。生活面を整えることが大切だと考える。
- ・障がいのある方が共同で生活が営めるような施設があると良いと思う。
- ・利用者が求めている会社と利用者を行政でつなげてもらえると、いろいろ広がると思う。
- ・利用者の仕事がない。事業所ではそれを探さがさないといけない。
- ・グループホームを始めようと申請を出した際、中津川市ではグループホームが足りてないと話を聞いた。市から空き家情報を提供してもらえるとありがたい。
- ・町づくりが必要。地域の支え、生活の支え、グループホームがあり、事業所も町の中にあると利用しやすくすることが必要だと思う。
- ・自分たちのように障がいのある人を支える専門職の専門性を高めていく人材育成の仕組みが欲しい。市でやってもらえると良い。そうすることで結果的に利用者にも仕事が回り良い循環ができると感じる。
- ・利用者の高齢化が進んでおり、親亡き後が現実的な課題となっている。親亡き後の問題は、ご家族と事業所だけでは解決できない。相談する先もない。ご家族と相談しても、まだ先のことと後回しにされる。事業所だけでなく行政にも関わってもらえる場があると良い。
- ・障がいがあったり、病気であったとしても、個性をもってそれを活かして行けるのであれば何らかの形で社会の役にたてるものだと思っている。障がい者福祉、農作業。やって良かったと思っている。
- ・同じような人が同じような作業ばかりをやっていては切磋琢磨できない。切磋琢磨できる環境が必要。子どもたちをどうやって育てるかということが大切だと思う。相談支援だけではだめ。一人一人状況も違うし悩みも違う。どうやって育てていくかが大切。情報交換の場が欲しいと思う。
- ・それぞれの作業所が孤軍奮闘している。その状況を知りたいと、身内の事業所等と一部の事業所さんにお声がけをし、限られた管理者さんの中で情報交換の場を地味にはじめた。協議会といった形で広がっていったら良い。作業のシェアや紹介ができるメリットがある。情報交換や共有できるのは良いと感じる。

【市議会議員の意見】

- ・福井市では、就労支援ガイドブックがあり、グループホームの情報等もあり、利用者にとっても、企業にとっても良いと感じた。
- ・福井市では、行政がマッチングを進めていた。
- ・行政視察先で、行政が企業側に積極的に訪問している先進事例があった。
- ・松本市では、ガヤガヤ会議をやっているとのことであった。言いたいことを発言して頂ける場を設けたことがあったとのことでした。